

■ On-Air 3000 ユーザーレポート

株式会社ベイエフエム 様

On-Air 3000

幕張に移転、スタジオシステムを On-Air 3000 x 5 式で構築



■ 第4スタジオの素晴らしいオーシャンビュー

株式会社ベイエフエム
技術局長
上埜 嘉雄



経緯

(株)ベイエフエムは平成元年の開局から17年を経過し、設備機器などが更新時期を迎えたため、平成18年12月に千葉市中央区から美浜区(幕張)に移転しました。もともと当社では本社スタジオの他に、平成3年12月から幕張メッセ前のツインビル、ワールドビジネスガーデン(WBG)マリブウエスト棟の27階にサテライトスタジオ「スタジオマリブ」を設置して運用しており、このスタジオと同フロアのエレベーターホールを挟んだ反対側1/2フロアを増床し、本社機能及びスタジオ等全てを移転した次第です。

スタジオ建築 / コンセプト

今回のスタジオはDJ番組制作に特化し、ライト感

覚で居住性のよさを重視しました。東京湾から富士山までが見渡せる雄大な景観の中で、臨場感のある放送ができるよう、壁厚をできるだけ薄くして圧迫感をなくし、ビル窓側はスタジオ側も窓として、とにかく景観の確保に努めました。

新設の第2~5スタジオは全てデザインを統一して、使い勝手を向上させました。大型木製テーブルの中にOn-Air 3000をビルトインし、CDプレーヤーやMOレコーダー等の単体機器とオーディオファイル端末をこの上に配し操作性を確保しておき、その他の機器はテーブル下の木製ラック内に設置しました。スタンドアロン型の調整卓や機器ラック等、大型の金属製品を廃することにより、景観を妨げず、かつ自然でウッディーな番組制作環境を実現できたと思います。



■ 第2～第5スタジオまで統一されたデザイン



■ シンプルな On-Air 3000 のモジュールレイアウト



■ マスター室・右端に On-Air 3000 操作部を設置



■ 開放感のあるアナブース

特に第4スタジオのブースは海に向かった南西の角部分にあり、DJは日の出から日の入りまで180度以上の景観が楽しめます。スタジオは他に、CDライブラリー室に隣接し電話リクエスト対応エリアを持つ第2スタジオ、主に録音に使用する第3スタジオ、マスター室に隣接し、報道コーナーや本社事務室にも近いため、情報番組やニュース、CM収録などに利用している第5スタジオという構成です。第1スタジオ=旧スタジオマリブAstIは内装を更新して使用。調整卓は唯一のアナログ卓 NEVE66 シリーズで、番組制作や音楽ミックス、さらに隣接する多目的スペースにおけるライブイベント等にも対応できるスタジオとなっています。STUDER D21mを介し光MADIでマスター室のS-COREに接続されています。

フルデジタル化 & 光 MADI 伝送

今回、スタジオの音源素材からスタジオ調整卓、室間伝送、主調整卓、送出リミッタに至るまで全てのデジタル化を実現しました。室間の伝送は1対の光ファイバーによるMADIで統一しました。これにより従来何十回線も必要であった各スタジオと主調整室間のメタルのオーディオケーブルが不要となりました。

On-Air 3000 について

On-Air 3000を採用した最大の理由はMADI接続が可能なことでした。第2～5スタジオのOn-Air 3000には、アナログ16ch (Mic 8ch/Line 8ch)と16 AES/EBU、そしてMADIの入力が用意されており、これらの中から必要な素材を18本の

フェーダーに立ち上げています。MADI回線には各スタジオの出力に加え、マスターからのAPS入出力の素材及びマイナスワンプが送受されており、各スタジオで選択して使用できます。マスターの入出力素材までをスタジオの卓側で使用できるのは画期的であり、フェーダー数は少ないものの、約70の素材を選択可能にしています。

また、On-Air 3000の隠れた長所と言えるのがアナログ領域で外部リミッタが挿入できることです。デジタル卓のインサートは通常D/A、A/Dを介して行いますが、On-Air 3000はアナログ卓と同様に、HA後段にアナログインサートポイントが設定できる仕様が用意されていました。こういった所は、やはり老舗メーカーならではの音に対するこだわりを感じさせる設計であると思います。